|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| はじめに  （1:05） | 皆さん、こんにちは。  　私は、●●税務署の●●●●といいます。  　【主な自己紹介の内容】  　・　所属する組織（団体）名、仕事（活動）内容  　・　その他（自分の出身中学校・中学生時代の話など）    今日は租税教室ということで、皆さんと一緒に税金の意義、役割や使い道、集め方などについて考えていきたいと思います。  　どうぞ、よろしくお願いします。  　早速ですが、「税」っていうと何税を思い浮かべますか？  　では、税の種類は何種類くらいあると思いますか？  （約10種類・約50種類・約100種類くらいで挙手させる）  　正解は、約50種類もの税金の種類があるのです。 | （簡単な自己紹介をしておきます。）  （●●税など、時間があれば当てて答えさせても良い） |
| 税金の種類  （1:27）  累計時間  （2:32） | 「私たちの生活と税」の３ページを開いてください。  税金は、どこに納めるか、誰が納めるか、などの視点から分類することができます。  　どこに納めるかによる分類でいうと、国に納める税金である「国税」と、県や市や町村に納める税金である「地方税」とに分かれます。  　誰が納めるかによる分類でいうと、「直接税」と「間接税」とに分かれます。  　３ページ真ん中の「税金の種類」という表の左側にある所得税など、税金を負担する人が直接納める税金であり、直接税といいます。  　右側の部分の税金は、消費税など、税金を負担する人が直接納めるのではなく、別の人を経て納める税金であり、間接税といいます。  　国税や地方税をすべて合わせると、約50種類の税金があるのです。  　これは、国や地方公共団体がそれぞれに税金を集めていたり、特定の人だけが税金の重みを感じたりすることがないようにするためです。  　国の税金は全国どこへ行っても同じですが、県や市町村の税金は住んでいる地域によって変わってきます。 | 副教材３ページ  真ん中の表 |
| 税金の必要性と公共サービス  （2:10）  累計時間  （4:42） | 「税金」といったらどんなイメージですか？  　難しいとか、複雑とか、そんな感じでしょうか？  　皆さんもコンビニで買い物をした時には「消費税」を負担しています。つまり税金を負担しているのです。  　また、働くようになると、儲けた金額に応じて「所得税」を納めるようになります。  　それでは、なぜこのような税金が必要なのでしょうか？  「私たちの生活と税」の１ページを開いてください。  　私たちは、暮らしの中で義務教育などいろいろな公共サービスを受けています。  　国や地方公共団体では、これらの公共施設や公共サービスを提供するために、たくさんのお金が必要となります。  　それを「税金」という形で集めているのです。  わたしたちが安心して豊かな生活をおくるために、様々な公共サービスや公共施設があります。  　税金のあるくらしでは、消防活動やゴミの回収など、皆さんが普段生活していて当たり前と思っていることが、公共サービスで行われています。  　もし税金がなかったらどうなるか想像してみてください。  　税金がなかったら、ゴミ処理や警察や消防にも費用が必要となり、大変暮らしにくい状況になるでしょう。  　したがって、これらの公共サービスは、私たちの生活に必要不可欠であり、それを賄うための税金は、非常に重要なものであると言えます。  では、税金はどのくらい公共サービスに使われているのでしょうか。  　１ページの一番下に身近な財政支出として書いてありますが、犯罪、事故防止及び消火活動等のためには、一人当たり年間約4万1,900円、ゴミの処理などのためには、一人当たり年間約1万8,600円、病気などの治療のためには、一人当たり年間約13万300円の税金が使われています。 | 副教材１ページ  【時間があれば、生徒にあてて回答させる】 |
| 歳入  （1:35）  累計時間  （6:17） | では、税金は１年間でどのくらい納められているのでしょうか。  「私たちの生活と税」の５ページを開いてください。  　財政の事務は、４月から翌年３月までの「会計年度」で行われます。この１年間の収入を「歳入」、支出を「歳出」といいます。  　国の予算には一般会計予算、特別会計予算、政府関係機関予算などがあります。その中で最も基本的なものが「一般会計予算」です。  　　左上の円グラフの令和２年度当初予算では、一般会計歳入総額は、102兆6,580億円とされています。  　その、一般会計歳入の31.7%が公債金、つまり国の借金です。  　一方、租税及び印紙収入、つまり税金による収入は、一般会計歳入の61.9％です。  　ちなみに、その他の収入には、国の財産を売った際の収入や国の財産を貸した際に賃料等があります。  　このように我国の財政は、約３割を公債金すなわち借金に依存している厳しい状況にあります。 | 副教材５ページ  左上の円グラフ |
| 歳出  （1:00）  累計時間  （7:17） | では逆に、日本の国全体では、どのようにお金が使われるのでしょうか。  　「私たちの生活と税」の６ページの上の円グラフを見てください。歳出の内訳を見ると、年金や医療費に使われる社会保障関係費が34.9%を占めています。  　また、国の借金返済・利息支払に22.7％、つまり約４分の１相当が過去からの借金返済に使われているということですが、あれ？と思いませんでしたか。  　借金を毎年、約32兆円しているのに、返済は約23兆円しかしていない・・・つまり国の借金残高は毎年増えているということです。借金が増えるということは、将来の世代に大きな負担を残してしまいます。 | 副教材６ページ  上の円グラフ |
| 公債残高の推移  （0:59）  累計時間  （8:16） | 国の歳入について、約３割が公債金収入であると説明しましたが、「私たちの生活と税」の９ページを見てください。  これは国の公債残高の推移を表したグラフです。  毎年の公債発行により日本の公債残高は年々増加の一途をたどっています。  令和２年度末の国債残高は約906兆円に上ると見込まれています。これは、税収の約14年分に相当するものです。あまりにも金額が大きすぎてピンとこないかもしれませんが、国民一人当たりにすると約723万円という金額になります。  将来の世代の負担となる、このような公債金をどうしていくのか、財政の大きな課題です。 | 副教材９ページ |
| 少子高齢化と社会保障  （3:02）  累計時間  （11:18） | それでは、人口に占める65歳以上の高齢人口の推移を見てみましょう。「私たちの生活と税」の７ページを開いてください。  左上のグラフを見てください。2020年現在、総人口に占める65歳以上の割合は、28％ですが、2050年には、38％になると見込まれています。グラフを見てもらっても分かるとおり、他の先進国に比べ日本は急速な早さで高齢化が進んでいます。2050年というとみなさんは、何歳になっていますか？  では、皆さんが45（46）歳になった時の状況をその下の絵で確認してみましょう。  2020年には、20～64歳で65歳以上の人口に対する比率は、1.9人に1人となっていますが、このまま高齢化が進むと、2050年には、1.3人に1人となることが見込まれています。  皆さんが、45（46）歳になった頃には、働く世代の1.3人で高齢者1人を支えなければいけない状況になり、働く世代の負担は益々増加するかもしれないということです。  医療費や年金、子育て、介護等の費用のことを「社会保障給付費」といいます。７ページの右上のグラフを見てもらっても分かるとおり、社会保障給付費は、年々大きく増加しています。  高齢化が進展すると、老人医療費や介護費用の増加が予想されます。高齢者人口が増加しているわけですから、もちろん社会保障給付費も増加していきます。また、子育て支援の充実などのためにも費用は必要です。  その財源がどうなっているかというと、それを賄うための租税収入いわゆる「税金」の収入である社会保険料収入は、横ばいで推移しています。社会保険料を負担する世代の人口は、増えていないわけですから、しかたありません。  社会保険料収入で賄いきれない部分は、国・地方が負担しているわけですが、その多くは借金（国債・地方債の発行）に頼るという厳しい状況になっています。  皆さん達のような将来の世代へこれ以上負担の先送りをすることはできないということで、「社会保障と税の一体改革」の一つとして、消費税率の引上げが昨年10月に実施されました。 | 副教材７ページ  （生徒の回答を聞く）  ７ページ下の絵  （いわゆる高齢者への年金支払額や医療費など） |
| グループワーク導入  （1:20）  ※移動時間を含む。  累計時間  （12:38） | ただ単に税金を集める、負担すると言ってもその集め方はいろいろな方法があります。ここで少し頭の体操をしましょう。  「公平な税金の集め方を考えてみよう！」というプリントを配っていますので、そのプリントを見てください。  これから、各クラスの各班に分かれて、このプリントに沿って税金の集め方について考えてみようと思います。  これまで説明してきた、教育や社会保障費、ゴミ処理費用など、１つの出費に対しても様々な集め方があることを体験してみましょう。  １組は●●さんの場所に、２組は●●さんの場所に、３組は●●さんの場所に集まってください。 | プリント  該当者は挙手 |
| グループワーク  ◇設問  ◇ワーク１  （1:34）  累計時間  （14:12） | では、早速プリントに取り掛かりますが、まずは設定を読みますのでプリントを見ながら聞いてください。  みなさんは、ある小さな市の市民です。小さな市で市民は６人。市の真ん中を市の管理する川が流れています。川には渡し船しかなく、学校や会社へ通うのが大変不便でした。そこで、市民全員の要望もあり、今度、市では新たに橋を架けることになりました。橋はどの市民も等しく生活に使っています。その橋を造るには1,800万円が必要となりました。  　つまり、公共サービス、いわゆる「みんなで使う橋」を造りましょうとなったので、当然みんなで使うので「じゃぁ税金でお金を集めましょう」となりました。  　もちろん、みんなで使うものなので公平に負担しましょうとなりますよね。そこで、まずはワーク１です。  すべての市民の収入が1,000万円とした場合、なるべく公平に集めたいと思いますが、いくらずつ集めればよいでしょうか。  　答えられる人。  　そうですね、1,800万円を６人で割るので当然、１人あたり300万円を負担するのが一番公平ですよね。 | ワーク１は、ワーク２を行うための導入問題なので、簡単に挙手等で解答させる。  （答えを聞いて、ホワイトボードに転記） |
| グループワーク  ◇ワーク２  （13:00）  累計時間  (27:12) | では、続いてワーク２です。  市民の収入が異なる場合、なるべく公平に集めたいと思いますが、いくらずつ集めればよいでしょうか。  　今度は、プリントにあるように１人あたりの収入金額が違っています。Ａさんのように2,500万円もらっている人もいれば、Ｆさんのように200万円しかもらえない人がいる中で、公平に税金を負担するにはどうしたら良いでしょうか。  　今から少し時間を取りますので、各班に分かれて検討してみてください。時間が来たら、各班の意見を発表してもらいます。それではスタート。  【検討時間を設ける】  　では、時間になったので１班から順番に発表してみてください。  ※　発表内容により適切なアドバイス（ワークシートの導入の仕方を参照。）を行い、各クラス単位でまずある程度考えさせる。  ※　各班の出揃ったところで、最終的にクラスの意見として発表する金額を多数決で決定する。 | ５～６分間、検討させる。  （各班に少しずつ顔を出し、少しアドバイスをしていく）  発表内容をホワイトボードに転記する。 |
| グループワークのまとめ  （3：00）  累計時間  （30:12） | みなさん、考えた結果、どうでしたか。公平な税金の負担方法が分かりましたか。  【各クラスの総評を行う】  　このプリントは仮定なので、「コレが正解」というものはありません。しかし、現実に、国会などで議論されている歳出、いわゆる税金の使い道にも「コレが正解」というものは、実はないのです。  　なぜならば、例えば地震などの震災が起こった場合は、当然復興のために支出するお金が増えますし、防衛などの支出も今議論されていますよね。年によって、国の状況なども変わってくるので、一概に「コレが正解」といえる税金の使い道、歳出の内訳は変わってくるものなのです。  　今みなさんに検討してもらった税金の負担方法や財源の確保などについても、様々な議論が交わされているのも事実です。  　また、単に「公平」と言っても、「皆が均等に負担する」方法や「収入の多い人が多く負担する」方法など、「公平な負担」にもいろいろな考え方があります。  　「皆が均等に負担する」方法は、みなさんに分かりやすくいうと消費税率がそうですね。 | 各クラスのホワイトボードを全員の見える位置に移動 |
| 消費税率の国際比較  （2:29）  累計時間  (32:41) | 消費税は平成元年４月に導入され、その当時の税率は３％でしたが、その後引き上げられ、平成９年４月からは５％になり、平成26年４月からは８％になりました。  　それではここで、世界の消費税を見てみましょう。  「私たちの生活と税」に戻ります。８ページを開いてください。  　各国の令和2年1月時点での税率です。  　日本の消費税は、令和元年10月から８％から10％に上がり、世界の主要国の中で税率が一番低い国ではなくなりましたが、他の主要国と比較しても税率が高いわけではありません。  　令和２年１月現在、消費税率が一番高い国はハンガリーで27％。次いでスウェーデン・ノルウェー・アイスランドと続き、これらの国の消費税率は24％以上で日本の２．５倍以上となっています。（それらの国の中には消費税率が高い理由の一つとして、医療費や年金、教育などをすべて税金で負担し、お金がかからないようにしている国が多いです。）  また、フランスの消費税率は、20％となっていますが、宿泊や外食サービスは10％、本や食料品は5.5％、新聞や医薬品は2.1％と複数の税率が設けられています。本や医薬品だけで比べると日本の税率よりも低くなっていますね。  　このように条件に応じて標準の税率よりも低い税率を適用することを軽減税率といいます。他にもドイツや、イギリス、スウェーデン等でも軽減税率が設けられています。  　みなさんも、今後の消費税のあり方について、どのような方法がよいと思うか考えてみてください。  　また、今回は、財源確保の例として消費税率の引上げを説明しましたが、財源確保には、いろいろな方法があります。  　これからの社会で活躍する皆さんが、自ら考え、若い世代の意思をしっかりと政治に反映させて欲しいと思います。 | 副教材８ページ |
| 累進課税制度  （0:50）  累計時間  （33:31） | 次に所得税の税率について説明します。所得税とは、働いて得たお金の一部から納める税金のことですが、所得税は消費税のように税率が一律ではありません。  　所得税は所得金額（いわゆる収入金額）に応じ、段階的に税率が高くなる仕組になっています。  このような税率の仕組みを「累進課税制度」といいます。  　この制度は、税負担の公平化を図るために設けられています。所得税は所得が多い人ほどたくさん納める仕組みになっています。  　このように、税を負担する人やモノなどによって、様々な負担方法や財源の確保策があることも覚えておいてください。 |  |
| 主権者教育  （1:33）  累計時間  （35:04） | 納められた税金は、国民の代表である国会議員が国民のためにどう使ったらいいかを国会で話し合って決めます。  国民が選挙でその代表を決め、内閣が予算案や法律案を国会に提出し、国会の審議・議決を経て「誰の、何に、いつ、どのように、いくら」税金をかけるかなどの税に関する法律（税負担の方法）や、集めた税金の使い道を決定し、それに基づいて国民は納税をするのです。  こうして納められた税金で国民は様々な公共サービスを受けたり、公共施設を使うことができます。  国民の代表である議員が、税金の納め方とその使い方を決めているわけですから、間接的には私たちが、税金の納め方と使い方を決めていることになります。  平成28年７月の衆議院選挙から、18歳まで選挙権が与えられることになったのは知っていますか。  みなさんも近い将来、選挙権を持った主権者となるので、税金の負担方法や使い方などについても、しっかりと考えていかないといけないので、新聞やニュースにも耳を傾けてみてくださいね。 |  |
| ホームページの紹介  （0:50）  累計時間  （35:54） | 最後に、ホームページの紹介です。「私たちの生活と税」の一番後ろのページを見てください。  インターネット上の国税庁のホームページでは、税に関する様々な情報を提供しています。  この国税庁のホームページには、「税の学習コーナー」というページがあり、税金について更に詳しく勉強できるようになっています。  また、動画で税の情報・税の仕事を紹介するページがありますし、税に関するよくある質問に回答したタックスアンサーのページがあります。  このように税に関する情報が満載ですので、岡山県のホームページと一緒に、是非一度ご覧になってみてください。 | 副教材　最終ページ |
| おわりに  （9:00）  累計時間  （44:54） | これまで、お話してきたことや、それ以外のことでもいいですが、せっかくの機会ですので、何か聞いてみたいことや確認してみたいことがあれば、挙手してください。  　では、本日の税の授業はこれで終わります。  　最後まで、ご清聴いただいてありがとうございました。 | （質疑応答） |